



「生きる」

岡山県高等学校
P T A 連合会
事務局
〒700-0824
岡山市北区内山下
1-14-19
TEL (086)
234-1640
FAX (086)
234-1835



岡山県高等学校 P T A 連合会会長
福 武 孝 之

皆様には平素より P T A 活動へのご参加ご協力を頂きまして心より感謝申し上げます。

さて昨今は日本の政治・経済など先行き不安の中、子どもへの教育に關しても大変ご苦労されている事と思ひます。ただその中でも我々は生きることを辞めることはできません。もちろん子どもたちは我々以上に長くこの世の中を生きてもらわなければいけません。そう思うにつけ私は自分の子どもたちに生きること、生きていくのかと考えるのです。

「生きる」を教えるとは、生きる目的や方法、生きる意味そのものを教えることで、どれも即答できない難問ばかりではないでしょうか？つまりそれは私たち親子自身も明確にわかっていない、人生のテーマなのではないでしょうか？それでも私たちは親は人生の先輩として生きることを教えずにはならないと思ひます。

は全て私たち親の責任なのではないでしょうか？私自身もこのことを考えるとただただ反省するばかりなのです。ではどうすればわが子に「生きる」を教えられるのでしょうか。

その通りでしょう。けれどもそれは、親は必要ないと言っているのではないのです。真つ白で生まれた命に、その生き方を教えるのは親の義務ではないでしょうか。もしわが子が間違つた生き方をしていたら、それ

私はいこう考えるのです。親は自分の人生を子に話す。自身の人生を振り返り徹底的に説明し分かり易く子に話すのです。それによつて私たち自身が「生きる」ということの意味や目的や方法などを改めて考えることになると思ひます。子どもにも勉強しなさいと言ふ暇があるならばまず自分が学ばなければいけないのです。もしかするとその姿を見て語らずとも生き

岡山県高等学校 P T A 指導者研修会報告

平成24年11月6日(火) ピュアリティまきびにおいて開催し、136名が参加した。



岡山フェアさん
実行委員長・副委員長

はじめに、県教育庁より、P T A の目的や役割、人権教育の推進についての説明があった。

続いて、11月10日・11日に開催された専門高校等の生徒による学習成果発表の祭典、第22回全国産業フェア岡山大会の生徒実行委員会から「さんフェア岡山2012」の P R があつた。

次に、人権課題の一つである「ホームレス問題」について正しい理解を深めて偏見や差別を解消していくため、貧困ネットワーク事務局長、N P O 法人自立生活サポートセンター・もやい理事 湯浅 誠氏を講師に迎え、「人として尊厳を守る、貧困と人権」と題して講演していただいた。

講演後、少人数のグループに分かれて各校 P T A 活動の紹介や、情報交換をおこなつた。



【情報交換】

どのグループも活発に意見を交わし、他校の活動を熱心に聞き入る姿に、参加者皆様の向上心の高さがうかがえた。



【湯浅 誠氏による講演】



単位 P T A 活動紹介

岡山商科大学附属高等学校

『できる時に、できる人が、できる事を』をモットーに譲り合い・認め合い・支え合い商大附属高校奨学会は、事業活動をしています。



【校門指導】

主な事業として、先生方と共に「頭髪身なり等指導強化週間」の校門指導。年間3回の学校・岡山駅間の合同保護。子どもたちも参加し学年別にいう岡山駅間の通学路清掃。学園祭支援として、体育祭で、文化祭の収益金を基にペットボトル飲料を子どもたちひとりひとりと対話をしながら手渡します。いつでも飲めるように麦茶も準備します。文化祭では、2日間にわたり、カレーライス・うどん・ラーメン・リング焼を作り販売。保護者、役員OB、同窓会役員、教職員の皆様に持ち寄っていただいた品でバザーも

開催します。また、オーブンスクールでは参加した中学生と保護者に昼食を提供し、保護者の方との対話に努めます。学校に直接聞きにくい事でも気軽に声を掛けて貰えるような雰囲気作りをします。今年度は、7月にカレーライスとコールスローラダを、12月はおにぎりとかけうどんを来校者に振舞いました。毎回大好評です。3月には、新入生召集日に喫茶コーナーを設け保護者の方のお話を聞き少しでも入学前の不安を解消していただけるように心掛けています。

毎年3月1日には、役員・役員OBと生徒会役員とで手作りしたコーサージュを胸に付け卒業生は巣立つて行きます。奨学会では生徒の事を『うちの子どもたち』と呼び、わが子同様に不安なく学校生活が過ごせるように、先生方と思いをひとつに活動を続けています。

県立和気閑谷高等学校

創立340年を超えた本校では入学から卒業まで閑谷三宝にもある「信・勤・儉」の精神で、学業、クラブ活動、ボランティア活動(校内、校外問わず)に生徒たちは励んでいます。P T A 活動は、5月の総会に始まり同日の恒例、校内食堂試食会では、普段子どもたちが

食べている物をいただきます。「安い・早い・うまい」の3拍子がそろっています。夏には猛暑の中、地域のお祭り等の補導活動を7地区で行っています。9月、文化祭では毎年違うメニューでP T A 模擬店を出し、今年の「ぶっかけうどん」では行列ができ昼には完売してしまい、並んでいたの方に申し訳なかつたです。



【模擬店】

地区別懇談会は先生方が学区地域に向いて下さり、3地区で保護者との交流を深めました。

冬には、1年生対象の寒中ウォーキングがあり、近隣の山に往復6時間かけて登ります。その際頂上で保護者が熱々のとん汁をふるまい、子どもたちは何杯もおかわりをします。「おいしい」と喜ぶ顔を見ると、朝早くからの大なべ、パン、材料などの準備の大変さが吹っ飛びます。土曜日午前中の土曜塾では

普通科は入試目標学習、キャリア探求科(旧商業)は資格修得学習を行っています。月1回の「あいさつ運動」は登校の数時間、子どもたちに「おはよう」の声をかけをしています。できるだけ一人ひとりの顔を見ながら(今日は機嫌がよくないな、寝不足かな?)など思いながら。私は参加して3年目になりますが、以前は関心なさそうだった子どもからあいさつが返ってきて大変うれしく思っています。「あいさつ」は大事にしていきたいものです。P T A 活動は、自分育ての場にもなっています。子どもたちと一緒に成長中です。

県立倉敷鷺羽高等学校

岡山県立倉敷鷺羽高等学校は県立児島高等学校と県立琴浦高等学校の再編整備により、平成17年に開校いたしました。未来創造科という特色ある学科で「誠実・創造・貢献」の校訓のもと、現在820余名の生徒達が日々の学生生活を楽しくしています。本校では様々な授業や部活動とは別に、

ボランテニア活動などの人間教育にも格段の力を入れており、地域の方々と共に素晴らしい人材の育成に努めております。さて本校P T A では龍王祭(文化の部・体育の部)において、バザーやご当地名物である「たこ飯」の販売等を事業の中心として、あくまでもフォロワーの立場で活動を行っています。子供達の成長過程において、高校時代というのは大人への入り口でもあります。必要以上に接するのではなく適度な距離感を持ち、家庭教育と学校教育のパイプとなるような役割を果たしています。本県でもそうですが昨今学力低下が言われる中、今後様々な学力アップ策が講じられるようです。しかし学業だけが全てではなく、人が人としてどう生きるかということを思春期にしっかりと学ぶことも大切なことだと感じます。子供達の自主性を育み、将来世の中に出たときに強く生きられるようしっかりと人間教育を実践しなければなりません。どの学校に入ったかということよりも、自分で選んで入学した学校で何をどう学ぶかということが大切なのですが、とすれば学力さえ向上すれば...というような考え方が蔓延するのも悲しい気がします。鷺羽高校では生徒達の学業と共に人間力をしっかりと磨いて参ります。我がP T A ではそ



倉敷翠松高等学校

ういつた教育環境もバックアップしています。決して出過ぎる事なく生徒達自身が未来を創造し、将来世の中に出たときに礼儀のわかる大人になれるよう、礼節を重んじ地域や人を、自分の住む町を愛する大切さを、生徒達と共に学べるP T A でありたいと願っています。

倉敷翠松高校は、P T A を奨学会と称しています。奨学会は「仲良く、楽しく、おもしろく」を合言葉に、年間を通じて様々な活動を行っています。一般的な活動内容は他校とあまり遜色ないと思います。研修旅行は毎年1回、近隣の文化施設等へ出向き見学、体験学習を行いながら、会員および教職員との親睦を深めています。なかでも3年に1度、京都にある裏千家お家元への研修旅行。これはやはり本校奨学会の特色のひとつです。全国でいち早く茶道教育を取り入れた本校の特権でもあろうかと思えます。



【挨拶運動】

裏千家今日庵(ごんにちあん)は京都の市街地にありながら、当時からたたくずまいをそのまま残しており、国から重要文化財及び名勝史蹟に指定されている、由緒と歴史ある建物です。そのため一般公開はされておらず、茶道をされている方でも今日庵にはなかなか立ち入ることができません。



【研修旅行】

裏千家今日庵の象徴である兜門(かぶともん)をくぐり、敷石を踏む。大玄関で白い靴下に履き替え、案内をされてお茶をいただき道具の説明を受ける。それから各茶室を拝見しながら説明を聞かせていただきました。

参加者は茶道の心得のない者が大半でしたが、非日常の空間に緊張しながらも、自然と心が和んでいくのを感じました。迎えられる客人と迎える主人お互いに一期一会の思いをはせて、今共有するこの時間を大切にし、素晴らしい出会いに感謝。

子どもたちが学んでいる茶道がいかに素晴らしいことか、参加者は肌で感じ取ることができました。

奨学会は学校と協力しながら、子ども達に素晴らしい出会いができるよう、活動していきたいと思えます。

県立笠岡工業高等学校

笠岡工業高等学校では、「挨拶日本一を目指そう」という目標の元に、学校と保護者と一緒に頑張って、子供たちに声を掛けています。その努力の甲斐があつてか、今では地域の方々から「笠岡の生徒さんは大きな声で元気よく挨拶して下さい。」といったお褒めの言葉をいただく事も多々あります。

このような取り組みの他に、本校は海に隣接していますので、保護者、先生、生徒と一緒に海岸クリーン作戦に参加しています。

そしてPTA最大の行事は笠工祭(文化祭)のふれあい餅つきバザーです。PTA役員は勿論、保護者の方からOBの方校長先生までもがみんな一緒にあって、90kgのもち米を半日かけて杵でつきまします。そして、そのお餅を販売しています。このお餅が地域の方々人気で、いつも完売しています。その利益で毎年卒業式には卒業生全員に紅白饅頭をプレゼントしています。本当に気持ちだけのプレゼント



【ふれあい餅つき】



ントなのですが、3年間の想いを何か形でと考え、毎年頑張っています。

これからも保護者、先生、子供達、そして地域の皆さんと一緒に進んで行ける笠岡工業高校らしい活動をして行きたいと考えています。

県立高梁城南高等学校

本校は岡山県西部の高梁市にあり、備中高梁駅から徒歩10分程の通学に便利な位置にあります。そのため生徒は県西北部を中心に通学しており、役員の方も広範囲から選出しているため、なられた方には、大変な苦勞の中、会を運営している。(役員合計26名)

役員会は総会をはじめ文化祭、体育祭などの前にあり、出席された方は必ず発言の機会を設けて会議の活性化に勤めています。

事業委員会は体育祭、城南祭(文化祭)の模擬店企画を行っており、その打合せに数回の会合を行っている。会合では模擬店の物品の販売について意見が交わされ、時間の許す限り話し合いを行っていますが、毎年生徒と出品かぶらないよう工夫している。体育祭、城南祭では役員全員が販売にあたり、役員間にも共に達成したとの思いから感動の一日になっています。

補導委員会は夏を締めくくると備中松山踊りの補導をはじめ、人権教育講習会への参加や季節ごとの生徒指導に率先して参加をしています。また体育祭城南祭にも参加し活動をしています。

広報委員会は城南高校PTA新聞松籟の企画編集を担っており、多くに取材の中から、城南高校PTAに関わる人の紹介に力を入れています。また、広報委員会はその会合の中で、保護者同士の雑談を重視した会



【役員会】

合となっており、いろいろな話を行えるまたとない会合であります。

このように城南高校PTAは子ども達を健やかに成長させるお手伝いをしたいと心から感じている保護者が集まり、その中で役員をしていただいている方が楽しんで活動できることを一番の目標としています。今後ともこの理念の基、活動を展開していきたいと考えています。城南高校の保護者で楽しかったと思えるように運営していきたいと考えております。

岡山県美作高等学校

岡山の北に位置する美作高等学校では、現在県北を中心に800名を超える生徒たちが学舎(まなびや)をともしにしております。私もPTAは、会長、副会長、監事からなる本部役員と各クラスから代表されるクラス役員で構成され、指導福祉部、総務文化部、保健体育部の3部会に全員が別れて活動しております。例年6月に開催される運営委員会で1年間の活動を確認して子どもたちのためにがんばっております。

内容につきましては、「朝のあいさつ運動」、出身中学校単位の地区別懇談会、文化祭・体育祭でのブース出店(模擬店)を行い、夏の津山の風物詩である「ごんごまつり」では、子どもたちと一緒に踊ったり、ゴミ

拾い(奉仕作業)も行っております。また、美作高等学校では毎年オーストラリアの高校生と交換留学をしており、9月に行われる留学生の歓迎会にも参画しております。



【模擬店】

まだまだ活発とは言えませんが、できるだけ多くの保護者に学校の様子や子どもたちの活動を知ってもらい、もっともつと保護者に関わりを持ってもらう努力していかないといけないと感じております。多くの関わりを持つことによって保護者も成長し、子どもも成長していくと思えます。そのため本年度からは1つのツールとして活用してもらおうとPTA新聞の発行を始める予定(3学期)です。

今後「学校(教師)」「保護者(大人)」「生徒(子ども)」が「Win Win」の関係を築けるようにPTA活動をがんばり、子どもたちの成長をバックアップしていきたいと思えます。

岡山県幼・小・中・高 P T A 連合会連絡協議会 第三十二回 研修大会

【テーマ】
「心豊かで生きる力を持つ
子どもを育てよう」

【期日】
平成25年1月18日(金)

【場所】
岡山シンフォニーホール

【趣旨】

県内の幼・小・中・高 P T A 関係者が一堂に会し、新しい時代を拓く。心豊かで生きる力をもつ子どもを育成するため、子どもの成長・発達に即した家庭教育の在り方について研修を深め、これからの P T A 活動の一層の発展を図る。

【内容】

岡山県下の幼稚園から高等学校までの保護者及び教育関係者約2千人が一堂に会し、研修大会を開催した。伊原木隆太郎知事をはじめ内山登真県会議長、竹井千庫教育長ら多数の来賓にご臨席いただき開会した。

◆幼稚園・小中学校・

高等学校の活動発表◆

はじめに、「『私たちの社会貢献』」ポランティアメイトの Change! Challenge! 録」と題し、岡山県立倉敷鷺羽高等学校の生徒による発表があった。自主的に



【県立倉敷鷺羽高等学校による発表】

ポランティアを希望する生徒達が集まって始めたポランティアメイトも活動も8年を迎え、地域を中心に幅広く活動をしている。社会貢献をテーマとしたシンポジウムを開催するなど、意識の向上を目指して組織化を図った。その結果、地元の方々から多くの声援を受けている。「ひとり1ポラ」の精神で始めたエコキャップ回収では、今年度前期だけで約263相当のポリオワクチンを届けることができています。社会貢献への高校生の高い意識や熱意に参加者は感銘していた。次に、「『地域と学校をつなぐ支える応援団です。』」コミュニケーションスクール中央の歩みとめざすこと」と題し、美咲町立中央中学

校学校運営会の方々による発表があった。地域と密接につながることで地域から様々なことを生徒が学び、学校では得られない体験ができる様子を発表した。続いて、「『みんなであつながれHappy Smile!』」友だちと楽しく英語で遊ぼう」と題し、矢掛町内の4園の園児による発表があった。英語の先生と歌ったり、リズムに合わせて身体を動かしたりと年長児が友達と楽しく英語に親しんでいた。園児達の一生懸命に発表する姿がほほえましく、心とまされた。

◆アトラクション◆

「歌うことは祈ること」

ソプラノ歌手

村上 彩子 氏

自らの経験を交えながらの美しい歌声に、魅せられ、深く感動し、涙する参加者もいた。

◆講演◆

「『目標に向け行動しよう』

古田流 かつこいい大人の行動哲学」

《講師》

古田 敦也 氏

古田敦也氏は、ヤクルトスワローズヘッドドラフト2位で入団し、首位打者をプロ入り2年目で獲得。捕手として、強肩と頭脳をいかした野球で攻守ともにチーム



【古田敦也氏による講演】

を牽引。5度のリーグ優勝と4度の日本一へ導いた。選手兼監督を経験し、引退後はプロ野球界で活躍してきた数々の経験からビジネスにも応用できる、チームの組織力や、マネージメントに関する講演をされている。幼いころからの野球との関わりや、2年間の社会人野球を経て、ヤクルトスワローズに入団するまでの道のりを振り返り、目標を明確にし、何事もあきらめず、目標に向かって行動し努力することの大切さをユーモアあふれ、優しく軽快に語られ、会場は幾度となく笑いの渦に包まれた。最後に捕手としての魅力とは、ピッチャーを助け、相手選手との心理の駆け引きをし、チームを勝利に導くこと。相手の気持ちを思う心が大切であると熱く語り、講演を締めくくった。講演後、閉会式を行い研修大会は幕を閉じた。

平成25年度の子定

岡山県高等学校 P T A 連合会総会

日時：平成25年6月19日(水)

場所：ピュアリティまきび

岡山県高等学校 P T A 指導者研修会

日時：平成25年11月6日(水)

場所：ピュアリティまきび

岡山県高等学校 P T A 連合会ホームページに事業内容等を掲載しています。ご覧ください。

<http://www.okayama-koupren.jp>

第55回中国・四国地区高等学校 P T A 連合会大会島根大会

日時：7月12日(金)

場所：島根県民会館 松江市



第63回全国高等学校 P T A 連合会大会山口大会

日時：8月22日(木)

場所：山口県スポーツ文化センター 他

山口市・宇部市

行程：岡山駅からバスを予定

